

製紙産業からみた 次期古紙利用率目標について

～産業構造審議会廃棄物リサイクル小委員会
発表資料～

2020年12月15日
日本製紙連合会

日本製紙連合会

▶ 設立1972年4月

1946年に設立された「紙及びパルプ工業会」に板紙、パルプ材などの関連団体が合併して設立

- 事業内容

製紙産業の健全な発展を目的に、主要な紙・板紙の原紙メーカーで構成される業界団体

- 会員

正会員30社 団体会員6団体

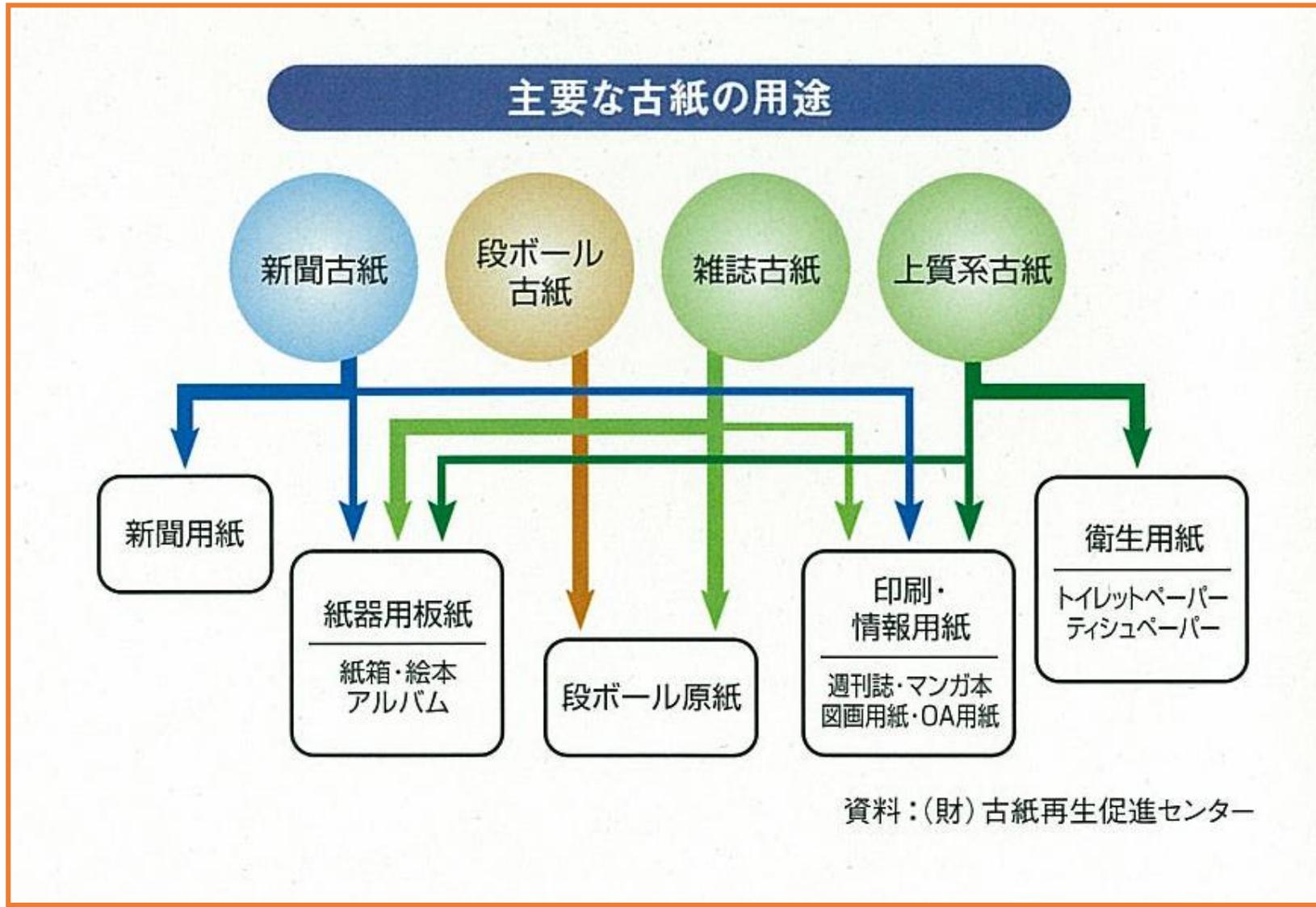
賛助会員46事業所

- 加盟会社の全国紙・板紙原紙生産力カバー率 88.6%

紙の種類

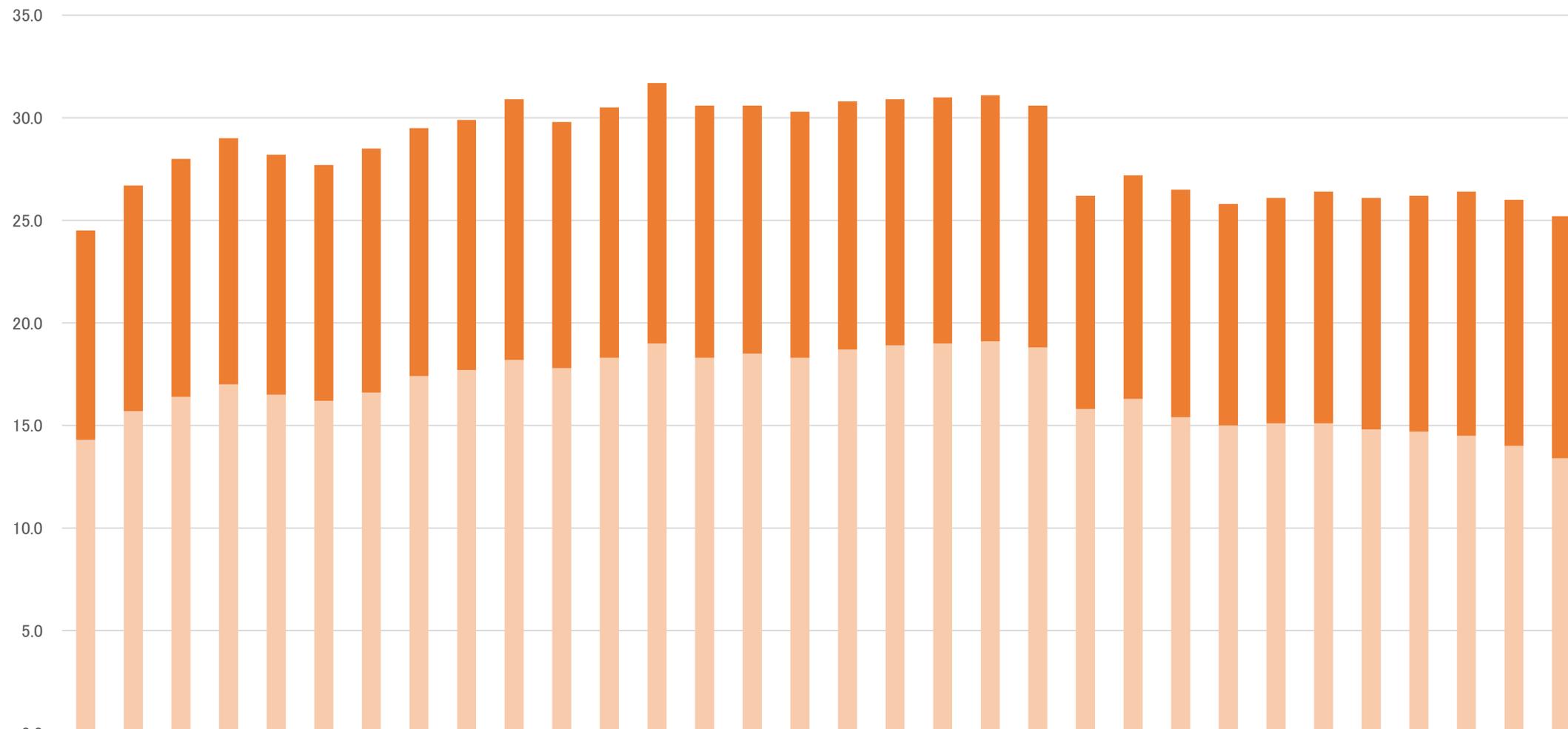
- ・ 紙
 - 新聞用紙 新聞
 - 印刷情報用紙 . . . ノート、雑誌、コピー用紙
 - 包装用紙 手提げ袋、米袋、包装紙
 - 衛生用紙 ティッシュ、トイレットペーパー
- ・ 板紙
 - 段ボール原紙 . . . 段ボール
 - 紙器用板紙 出版物表紙、菓子箱、化粧品箱

古紙の種類と用途



紙・板紙生産量推移（1988年～2019年）

（単位：百万トン）

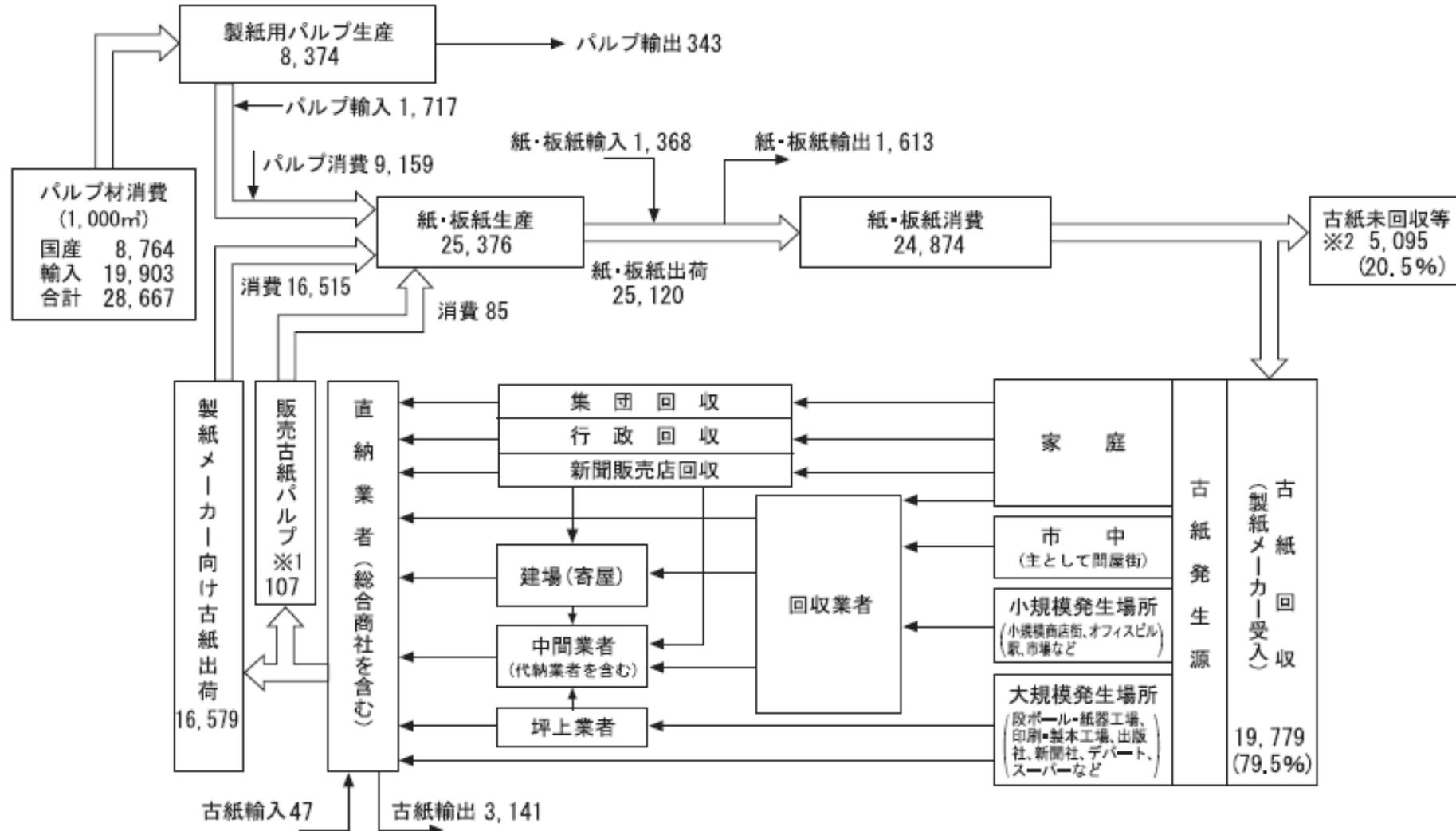


	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
合計	24.6	26.8	28.0	29.0	28.3	27.7	28.5	29.6	30.0	31.0	29.8	30.6	31.8	30.7	30.6	30.4	30.8	30.9	31.1	31.2	30.6	26.2	27.3	26.6	25.9	26.2	26.4	26.2	26.2	26.5	26.0	25.3
■板紙	10.2	11.0	11.6	12.0	11.7	11.5	11.9	12.1	12.2	12.7	12.0	12.2	12.7	12.3	12.1	12.0	12.1	12.0	12.0	12.0	11.8	10.4	10.9	11.1	10.8	11.0	11.3	11.3	11.5	11.9	12.0	11.8
■紙	14.3	15.7	16.4	17.0	16.5	16.2	16.6	17.4	17.7	18.2	17.8	18.3	19.0	18.3	18.5	18.3	18.7	18.9	19.0	19.1	18.8	15.8	16.3	15.4	15.0	15.1	15.1	14.8	14.7	14.5	14.0	13.4

■紙 ■板紙 合計

古紙の流通機構とリサイクル（2019年）

単位：千トン



※1 については、古紙パルプ用に使用された古紙を80%として換算した推定値
 ※2 非製紙用消費等を含む

資料：経済産業省「紙・パルプ統計」
 財務省「通関統計」

古紙利用を進めるための製紙業界の取り組み

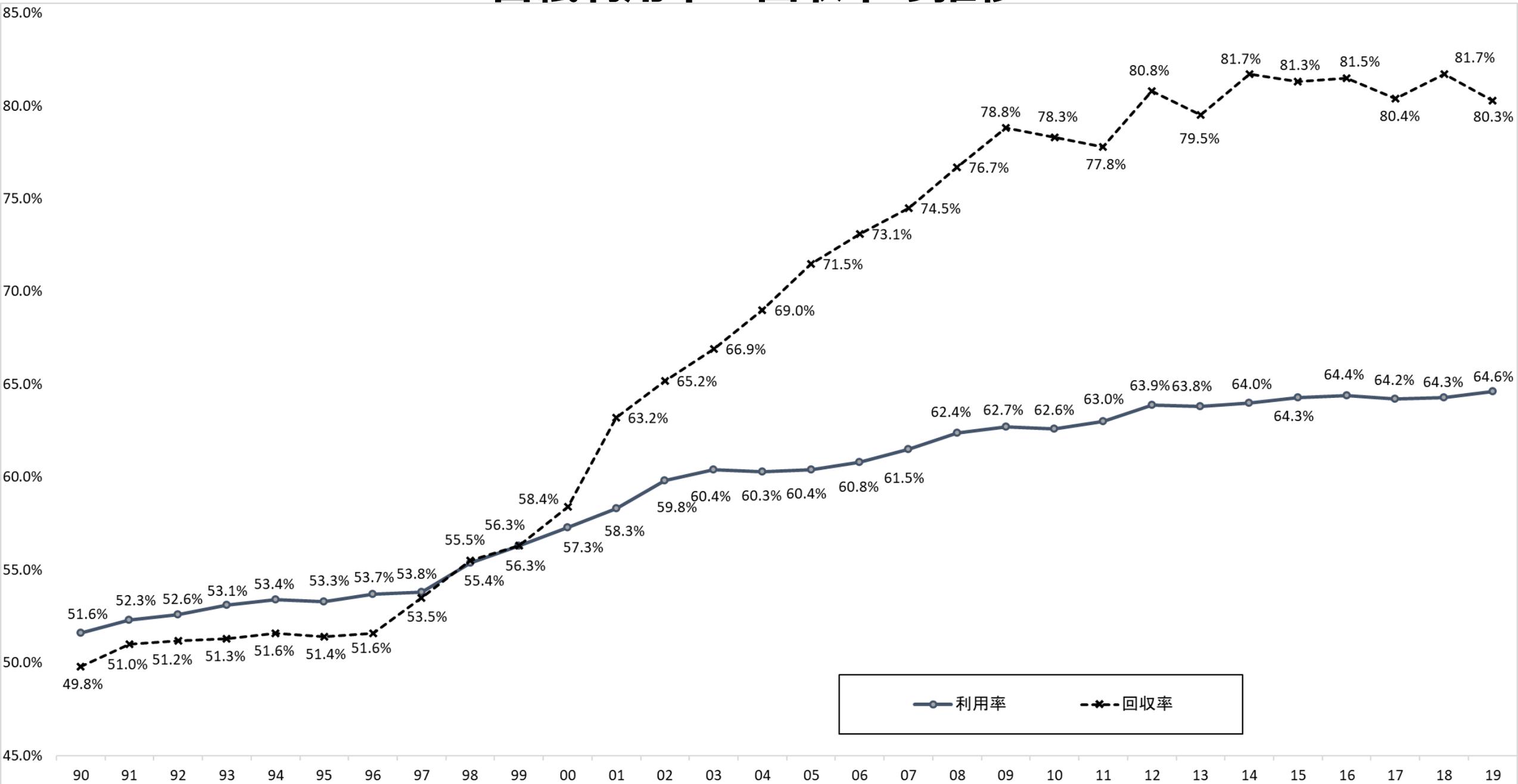
- ・古紙の再生工程は、紙、板紙の種類によって異なるが、おおよそ次の4工程に分けられる。

- ①古紙をほぐして繊維に戻す（離解）
- ②古紙に含まれる異物やゴミを取り除く（除塵）
- ③インキを除去する（脱インキ）
- ④漂白する

- ・製紙業界では、このいずれの工程でも**再生処理が効率的に行えるよう技術革新**に力を注いできた。

- ・この結果、今日**日本の古紙再生技術は、海外でも評価されるほど高水準**にある。

古紙利用率・回収率の推移



古紙利用率の推移

- ・ **古紙利用率**は2014年度から2019年度までの**6年間64%台で推移**。

(1) 紙の古紙利用率

- ・ 2009年度に41.4%のピークに達して以降、**年々減少傾向で推移し、2019年度は36.6%まで低下**。
- ・ 紙の中でも比較的古紙利用率の高い新聞の生産の減少が続いていることや、ユーザーから白色度向上や異物混入削減などバージンパルプを使用したものと同等の製品が求められることが影響。

(2) 板紙の古紙利用率

- ・ 2012年度93%に達して以降、**93%台の横ばいで推移しほぼ限界**。

⇒古紙利用技術はすでに高度な技術水準に達するとともに、回収率の高まりにより、品質の良くない古紙も利用していかなければならないことを踏まえれば、**紙・板紙ともに古紙利用率の向上は困難**。

次期古紙利用率目標

・日本製紙連合会においても、技術的に配合可能な理論的限界値の範囲内で、紙・板紙の生産量、古紙の回収量、古紙の輸出量等の動向を踏まえつつ、中国をはじめとするアジア諸国の製紙産業の成長に伴って一層グローバル化した古紙の需給環境等も考慮し検討を実施。

⇒古紙利用率次期目標は、65%とすることが適切と判断

注) 2020年度上半期の古紙利用率は68.6%とこれまでになく高い実績。

⇒新型コロナウイルス感染拡大の影響で、紙・板紙の生産量が大幅に減少
→古紙利用率の高い板紙よりも古紙利用率の低い紙の減少幅が大きいこと、さらに紙の中でも古紙利用率の低い印刷・情報用紙の落ち込みが大きいことがその原因

古紙利用を促進するために

循環型社会の構築に向け引き続き古紙の利用を拡大していくために、製紙業界、古紙業界、消費者、そして行政など紙のリサイクルに係る全ての関係者が一体となって、

- ①古紙の分別排出のより一層の徹底
- ②再生紙の消費拡大
- ③品質の高い古紙供給体制の整備
- ④古紙パルプ製造コストの削減
- ⑤難処理古紙等未利用古紙の利用技術確立

など、それぞれの分野において克服しなければならない課題に取り組んでいくことが重要であり、日本製紙連合会としても引き続き努力してまいりたい。